

第10回 全国史料ネット研究交流集会 in 首都圏 開催概要

日時：2024年2月17日（土）13:30～17:30
2月18日（日）10:00～15:00

会場：一橋大学 東キャンパス 東2号館（東京都国立市東2丁目4）
オンライン（zoom）との併用で開催

【主催】第10回全国史料ネット研究交流集会実行委員会

人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用
機関ネットワーク事業」

【共催】一橋大学社会学研究科

科学研究費補助金特別推進研究（課題番号：19H05457）

「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」
（研究代表：奥村弘）

【後援】国立文化財機構文化財防災センター／神奈川県博物館協会／千葉県博物館協会／房総史料調査会／甲州史料調査会／千葉歴史・自然資料救済ネットワーク／茨城文化財・歴史資料救済・保存ネットワーク／群馬歴史資料継承ネットワーク／とちぎ歴史資料ネットワーク／那須資料ネット／NPO法人歴史資料継承機構じゃんびん／NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク／山形文化遺産防災ネットワーク／ふくしま歴史資料保存ネットワーク／そうま歴史資料保存ネットワーク／新潟歴史資料救済ネットワーク／信州資料ネット／地域史料保全有志の会／東海歴史資料保全ネットワーク／歴史資料保全ネット・わかやま／歴史資料ネットワーク／広島歴史資料ネットワーク／岡山史料ネット／山陰歴史資料ネットワーク／愛媛資料ネット／歴史資料ネットワーク・徳島／高知地域資料保存ネットワーク／熊本被災史料レスキューネットワーク／宮崎歴史資料ネットワーク／鹿児島歴史資料防災ネットワーク



歴史文化資料保全の大学・
共同利用機関ネットワーク事業

Inter-University Research Institute Network Project to Preserve and Succeed Historical and Cultural Resources

【開催趣旨】

関東大震災から100年を迎えるなか、首都圏地域における減災・防災体制のあり方が多方面で議論・検討されています。特に、首都直下型地震への対策は喫緊の課題であり、地域における歴史文化の保存・継承に向けた関係構築や組織整備、担い手の養成など、様々な議論と実践が行われています。

地域社会を機軸とした災害対策や資料保存・継承の活動に関しては、1995年阪神・淡路大震災を直接の契機として、その後多発する自然災害などへの対応をとおして全国各地で取り組まれています。首都圏においても「資料ネット」や史料調査会などの地域活動も盛んに行われており、災害対策に限定されない資料調査や保存活動などを目的とした多様な活動が進展しています。

大学や博物館、文書館、図書館など、多様な立場の人びとが首都圏地域を拠点に活動するなか、地震や台風・豪雨などの大規模災害に対してどのような備えが求められるのでしょうか。災害発生時には、分野や立場を超えた横断的な連携が必要となりますが、日常的な活動の持続や災害を想定した準備や協力関係の構築など、首都圏という地域の性格に応じた整備を検討する必要があります。

今回の研究交流集会では、首都圏地域における資料保存や災害対策の現状を確認し、今後の課題と展望を議論していきます。

第10回全国史料ネット研究交流集会 in 首都圏 プログラム

1日目 2月17日(土)

13:00 開場

13:30 開会

総合司会：築瀬大輔（群馬歴史資料継承ネットワーク代表）

13:30～13:40

開会挨拶：木部暢子（大学共同利用機関法人 人間文化研究機構機構長）

久留島浩（第10回全国史料ネット研究交流集会実行委員長）

13:40～13:45

趣旨説明：小野塚航一（国立歴史民俗博物館）

13:45～15:00

第1セッション：首都圏地域の資料保存活動と災害対策 …………… 4頁

報告：白井哲哉（茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク／筑波大学）

「首都圏地域における資料救出ネットワーク構築の課題を考える」

黄川田翔（文化財防災センター／東京国立博物館）

「首都圏1都7県の文化財防災への取り組みと災害対策の課題」

天野真志（国立歴史民俗博物館）

「歴史文化資料保全首都圏大学協議会の目的と展望」

15:00～15:30 討論

司会：工藤航平（国立歴史民俗博物館）

15:30～16:00 休憩

16:00～17:00

第2セッション：資料ネット活動を取りまく諸活動 …………… 8頁

報告：柏原洋太（千葉県文書）

「資料ネット活動に期待される千葉県文書館の役割—課題と展望—」

望月一樹（神奈川県博物館協会／神奈川県立歴史博物館）

「神奈川県博物館協会の総合防災計画とその活動」

西口正隆（甲州史料調査会／土浦市立博物館）

「甲州史料調査会の現状と課題」

17:00～17:30 討論

司会：小関悠一郎（千葉歴史・自然資料救済ネットワーク／千葉大学教育学部）

2日目 2月18日(日)

9:30 開場

10:00～11:20

第3セッション：資料保存・継承の現場 12頁

報告：福田博晃（とちぎ歴史資料ネットワーク／日光市歴史民俗資料館）

「日光市における資料所在調査の展開と課題」

作間亮哉（那須資料ネット／那須歴史探訪館）

「地域博物館・資料館と史料ネットの関係—那須の事例から—」

佐藤有（群馬歴史資料継承ネットワーク／群馬県立歴史博物館）

「博物館と歴史資料の継承—近年の群馬県立歴史博物館の歴史資料の受入れ過程を事例に—」

小野寺華子（千葉歴史・自然資料救済ネットワーク／千葉大学大学院）

「資料ネットと大学の連携について—千葉資料救済ネット・千葉大学文学部歴史学コースの活動を通して—」

11:20～11:50 討論

司会：添田仁（茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク／茨城大学）

12:00～12:50

ポスターセッション

13:00～13:30

2024年1月1日 能登半島地震に関わる緊急情報交換会

13:30～14:50

総合討論：首都圏地域における資料保存・継承の可能性 17頁

登壇者：白井哲哉（茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク／筑波大学）

工藤航平（国立歴史民俗博物館）

小関悠一郎（千葉歴史・自然資料救済ネットワーク／千葉大学教育学部）

添田仁（茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク／茨城大学）

司会：三上喜孝（国立歴史民俗博物館）

14:50～15:00

閉会挨拶：若尾政希（大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事／一橋大学大学院教授）

奥村弘（歴史資料ネットワーク代表／神戸大学副学長）

15:00 閉会

第1セッション：首都圏地域の資料保存活動と災害対策

【趣旨】

関東地域における資料保存の経過と現在を確認し、多様な活動を通して表出した課題や可能性を検討する。特に、首都直下型地震という危機に対し、行政や大学・博物館等が如何に対策を講じていくか、その現在地点を踏まえながら、今後の展開を議論する。

【報告者】

白井哲哉（茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク／筑波大学）

黄川田翔（文化財防災センター／東京国立博物館）

天野真志（国立歴史民俗博物館）

【司会者プロフィール】

工藤航平（くどう・こうへい）

国立歴史民俗博物館・准教授。1976年神奈川県横浜市生まれ。

専門：日本近世・近代史、アーカイブズ学。

東京都公文書館専門員などを経て現職。資料群を個人・家・組織の固有の〈知〉の集積体ととらえ、その構造と特質について研究を行う。また、分散・移動した資料群の歴史的経緯の解明と地域的価値の再発見、関係する地域間での共有・活用について考えている。主な著書・論文に『近世蔵書文化論—地域〈知〉の形成と社会—』（勉誠出版、2017年）、「北海道所在の民間アーカイブズの特質—分割管理された「移住持込文書」の伝来と意義—」（国文学研究資料館編『社会変容と民間アーカイブズ』勉誠出版、2017年）。

茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク／筑波大学
白井哲哉

関東一都六県で地域における資料保存の特徴は5点挙げられる。第一に、歴史的背景として資料散逸の画期が数回あったこと。第二に、資料散逸の画期だった太平洋戦争終結直後に若い大学人を含む民間組織による歴史資料調査が始まり現在も続いていること。第三に、それらの成果も踏まえ自治体史編さん事業で民間所在資料の悉皆調査が試みられたこと。第四に、県立文書館施設の設置など資料保存体制が整備されその潮流が区市町村にも及ぶこと。第五に、以上の経緯から当該地域の資料保存では行政のパワーが強いこと、である。

その反面、関東地域では過去100年に大災害の経験をほとんど持っていないこと、新住民が多いこと、民間組織のパワー低下がみられること、も指摘できる。首都圏地域において今後の資料救出広域ネットワークを構想する際、2015年関東・東北豪雨水害時の茨城県常総市における資料レスキュー活動は、その課題も含め一つの参考となるだろう。

【報告者プロフィール】

白井哲哉（しらい・てつや）

筑波大学図書館情報メディア系・教授。1962年神奈川県横浜市生まれ。

専門：日本アーカイブズ学、日本近世史。

埼玉県教育委員会学芸員として文書館、博物館、文学館などの勤務を経て現職。歴史資料の保存活用や公文書管理をめぐる諸問題、災害アーカイブに関する調査研究に従事。主編著に『災害アーカイブ』（東京堂出版、2019年）、『地域の記録と記憶を問い直す』（須田努氏と共編、八木書店、2016年）、『日本近世地誌編纂史研究』（思文閣出版、2004年）。

文化財防災センター／東京国立博物館

黄川田翔

「文化財防災センター」は、令和 2（2020 年）10 月 1 日に独立行政法人国立文化財機構に設置された組織である。頻発する災害から文化財をまもり、災害発生時の救援・支援を多くの組織や専門家の協力によって迅速かつ効果的に実施するため、文化財防災に関する体制構築や調査研究など様々な事業を推進している。特に中核的な事業である「地域防災体制の構築」では、各都道府県の文化財保護行政所管部局と緊密に連携した上で、域内の文化財関係団体間の連携体制の構築を促進しているところである。他の地域と同様に、首都圏の 1 都 7 県においても、平成 31（2019）年 4 月から施行された改正文化財保護法に基づき文化財保存活用大綱の策定がおこなわれ、それを契機として、文化財防災に関する新たな施策に取り組む事例もいくつかみられる。本報告では、これら事例を紹介すると共に、首都直下地震などの災害リスクに対して、首都圏が抱える災害対策の課題などについても考える。

【報告者プロフィール】

黄川田翔（きかわだ・しょう）

（独）国立文化財機構文化財防災センター・研究員／（併）東京国立博物館学芸研究部保存修復課・研究員。1989 年岩手県生まれ。

専門：保存環境、照明工学。

株式会社 YAMAGIWA、（独）国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェローを経て現職。主な業績として、「東京都を取り巻く災害リスクと文化財防災で目指すレジリエンスな地域社会」（文化財の保護 56, 2023 年）、「文化財防災ネットワーク推進事業の現況：関東甲信越地方での活動状況について」（地方史研究 69-1, 2019 年）などがある。

国立歴史民俗博物館

天野真志

人間文化研究機構によるプロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」では、国立歴史民俗博物館と神戸大学・東北大学を中心拠点として、資料ネットや大学・博物館・行政・地域住民等と連携し、地域に伝えられる多様な歴史文化資料の保存・継承に向けた取り組みを推進している。特に、大学共同利用機関法人として、諸活動における大学の役割について、資料ネット等を推進する関係者と諸活動における課題や展望を議論し、実践を重ねている。その一環として、2019年度より首都圏地域を対象として「歴史文化資料保全首都圏大学協議会」を開催し、各地域の取り組みにおける大学の役割や地域歴史資料の保存・継承と大学研究・教育活動との関わりについて議論を重ねている。本報告では、これまでの経過を紹介し、一連の議論を通して見えてくる課題と可能性について考える。

【報告者プロフィール】

天野真志（あまの・まさし）

国立歴史民俗博物館・准教授。1981年島根県浜田市生まれ。

専門：日本近世・近代史、資料保存。

東北大学災害科学国際研究所助教などを経て現職。地域歴史資料の保存・継承に向けた取り組みを通して、各地域における歴史文化と人びとの関わりについて考えている。主な著書に『幕末の学問・思想と政治運動』（吉川弘文館、2021年）、『地域歴史文化継承ガイドブック』（共編著、文学通信、2022年）など。

第2セッション：資料ネット活動をとりまく諸活動

【趣旨】

首都圏地域における博物館や文書館による取り組み、さらには地域における資料調査活動の状況を踏まえ、首都圏地域における資料ネット活動の課題と可能性について議論する。

【報告者】

柏原洋太（千葉県文書館）

望月一樹（神奈川県博物館協会／神奈川県立歴史博物館）

西口正隆（甲州史料調査会／土浦市立博物館）

【司会者プロフィール】

小関悠一郎（こせき・ゆういちろう）

千葉歴史・自然資料救済ネットワーク共同代表／千葉大学教育学部・准教授。

1977年、宮城県仙台市生まれ。

専門：日本近世史。

日本学術振興会特別研究員（PD）などを経て現職。千葉資料救済ネットの活動を通して、首都圏における資料ネットの役割・あり方について考えている。主な著書・論文に、『上杉鷹山「富国安民」の政治』（岩波書店、2021年）、「地域史料の保存利用と資料ネット」（『日本歴史学協会年報』33、2018年）など。

千葉県文書館
柏原洋太

令和元年に発生した大雨を経験し、千葉県文書館では、資料に対する防災対策の必要性を改めて認識した。これを受けて館内で体制作りを検討しており、その一つとして外部連携を模索している。本報告では、資料救済ネットや県内研究機関との連携を想定し、県の機関である文書館に期待される役割について現状を整理し、その課題について考察する。具体的には、まず、文書館が持っているモノを提示しつつ、その活用について検討する。その上で、日常的な連携・発災時の連携について、私案を提示したい。

一方で、連携を行うためには解決すべき課題が山積しており、現時点では体制が構築できているわけではない。その要因の一つに、文書館が期待される役割を、自分たちが把握できていないため、組織内でその必要性を十分に共有できていないという点がある。本研究交流会の議論を通じて、文書館へのニーズを把握するとともに、連携に向けた機運を高めたい。

【報告者プロフィール】

柏原洋太（かしわばら・ひろたか）

千葉県文書館行政文書資料課・副主査（専門職）。1986年生まれ（神奈川県座間市出身）。

専門：日本近代史、行政史、記録管理史。

国立公文書館アジア歴史資料センター、日本銀行金融研究所アーカイブを経て現職。史料レスキューについては、ほとんど経験がないため、しっかりと勉強していきたい。主な論文に「明治初期の地方官の権限と地方税」（『日本歴史』793、2014年）、「二代目県令船越衛による県庁機構の整備について」（『千葉史学』78、2021年）など。

神奈川県博物館協会／神奈川県立歴史博物館

望月一樹

神奈川県博物館協会では、2011年東日本大震災による博物館施設や文化財の被災状況を目の当たりにし、大規模災害が発生した際に加盟館園が相互連携して救援活動が行える体制を構築するため、2016年に総合防災計画を作成した。計画では県内を6つのブロックに分け、有事における救援体制や活動内容はもちろんであるが、平時での訓練や研修会についても要綱としてまとめ、実施している。また些少であるが、救援活動に必要な経費のための積み立ても行っているところである。

本報告では、防災計画・要綱に示された具体的な内容と、災害発生時の連絡訓練や防災関連研修など日頃の活動について紹介したいと思う。あわせて令和元年東日本台風により浸水被害を受け、地下収蔵庫内の資料が被災した川崎市市民ミュージアムでの支援活動の一端を紹介する。

【報告者プロフィール】

望月一樹（もちづき・かずき）

神奈川県立歴史博物館・館長。1961年神奈川県横須賀市生まれ。

専門：日本古代・近世史、神奈川地域史。

川崎市市民ミュージアム学芸員・学芸室長、シルク博物館学芸担当課長、神奈川県立歴史博物館学芸部長を経て現職。これからの地域博物館としての役割（資料収集や保存）や情報発信などについて考えている。主な著書に『日本史小百科 宿場』（共編著、東京堂出版、1999年）、『学芸員の仕事』（共編著、岩田書院、2007年）など。

甲州史料調査会／土浦市立博物館

西口正隆

1991年に発足した甲州史料調査会は、山梨県内を中心に史料調査活動を行うボランティア団体である。学習院大学内に事務局を置き、学生・大学院生・大学等教員・学芸員・自治体文化財担当者など多くの方々が活動に参加している。同会は史料の救出・保存のみならず、史料群を用いた研究活動にも重きを置く点に特徴がある。今年で発足から33年目を迎え、これまでに史料調査を行ってきた総件数は32件、調査回数は136回を数えるようになった。30年以上の活動実績を積み重ねてきた一方、昨今激甚化する災害への対応や会の活動内容・運営などには、いくつかの課題がある。本報告では甲州史料調査会の発足以来の活動状況を概観したうえで、同会における活動の課題と展望を述べていきたい。

【報告者プロフィール】

西口正隆（にしぐち・まさたか）

土浦市立博物館・学芸員／甲州史料調査会事務局員。1994年埼玉県上尾市生まれ。

専門：日本近世史。

学習院大学文学部史学科卒業、一橋大学大学院社会学研究科修士課程を修了し、現職。博物館学芸員として、地域の歴史資料を保全・活用した展覧会や研究を行う。このほか甲州史料調査会などの活動を通して、歴史資料の保存と活用を考えている。主な論文に、「安永の河岸吟味政策と河岸問屋の復活」（『日本歴史』891、2022年）、「近世大名家における刀剣管理と記録作成」（『国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇』17、2021年）など。

第3セッション：資料保存・継承の現場

【趣旨】

各地で展開する資料ネットは、多くの場合が大学や博物館・文書館と連動した活動であることに注目し、資料ネット活動を担う学芸員や大学院生などの日常業務や研究活動における地域との関わりを踏まえ、地域活動における現状から資料ネット活動への課題と可能性について議論する。

【報告者】

福田博晃（とちぎ歴史資料ネットワーク／日光市歴史民俗資料館）

作間亮哉（那須那須資料ネット／那須歴史探訪館）

佐藤有（群馬歴史資料継承ネットワーク／群馬県立歴史博物館）

小野寺華子（千葉歴史・自然資料救済ネットワーク／千葉大学大学院）

【司会者プロフィール】

添田仁（そえだ・ひとし）

茨城大学・教授。1976年広島県三原市生まれ。

専門：日本近世史。

神戸大学人文学研究科助教などを経て現職。茨城史料ネット事務局長として、大学生とともに地域歴史資料の保存・継承に向けた取り組みを進めている。主な著書に『長崎 東西文化交渉史の舞台』（共著、勉誠出版、2013年）、『地域文化の可能性』（共著、勉誠出版、2022年）など。

とちぎ歴史資料ネットワーク／日光市歴史民俗資料館
福田博晃

栃木県内の古文書の所在調査は、『栃木県史』や市町村史編纂の際に悉皆的に行なわれ、県によって『栃木県史料所在目録』が刊行された。この『栃木県史料所在目録』は、目録の表記が非常に簡素であることや、目録の掲載から漏れた古文書もあり、課題があった。また各自治体史の刊行から約30～50年の間で、所在情報が更新されていないことも県全体の課題として存在している。日光市でも近年、目録未掲載の古文書や所在を追跡できなくなった古文書を多数確認している。

これらの課題を受けて、日光市では、古文書の現在の所在や目録の追加・見直しに着手したところである。特に平成30年(2018)に開始した足尾地域の調査では、新出の中世文書を確認し、展示の開催や史料集の刊行によって、市民等へ周知した。また令和5年(2023)からは、栗山地域全体に及ぶ所在調査に着手した。

一方で、日光市の資料に関する情報発信や情報収集は、十分とは言えない。そこで、とちぎ歴史資料ネットワークと日光市が連携し、市民・県民にとって貴重な資料の散逸防止を呼び掛けていく必要があると考える。

【報告者プロフィール】

福田博晃（ふくだ・ひろあき）

日光市教育委員会事務局文化財課歴史民俗資料館・二宮尊徳記念館 主任。

1995年栃木県日光市生まれ。

専門：日本近世史。

信州大学人文学部卒業後、日光市へ入庁。市内に残る古文書の整理・調査などの業務を行なっている。令和5年度日光市歴史民俗資料館テーマ展「高徳藩—日本で最後にできた藩—」を担当した。

那須資料ネット／那須歴史探訪館
作間亮哉

那須資料ネットは、栃木県北に位置する3市2町（那須塩原市・大田原市・那須烏山市・那須町・那珂川町）をコアフィールドとして活動する史料ネットです。当会は市民主体を掲げ、博物館・行政と関係を築きながら活動を実施しています。地域計画や防災計画における博物館・資料館と資料ネットとの関係や、担い手育成としての場としての博物館と資料ネットについて、これまでの那須資料ネットの実践と活動から報告します。

【報告者プロフィール】

作間亮哉（さくま・かつや）

那須資料ネット／那須歴史探訪館。1993年宮城県仙台市生まれ。

専門：日本近現代史。

那須資料ネットで事務局長を務めるとともに、職場では廃校の資料保全を実施。交代寄合旗本、栃木県の戦時期・戦後開拓、那須町出身の中国通ジャーナリスト松本鎗吉・神田正雄について関心を持つ。「大田原市の戦争モニュメント—日露戦争以降を事例として—」（『大田原市史研究』3、2023年）など。

群馬歴史資料継承ネットワーク／群馬県立歴史博物館
佐藤有

従来公的機関として博物館や公文書館などがその地域の資料の保存・継承の主体となってきたが、国内で相次ぐ自然災害等への対応から、近年、史料ネットなどの設立や活動が活発になり、地域の文化財の保存・継承のアクターが増えてきている。

本報告では、群馬県域を対象とし、県立歴史博物館の地域資料の収集活動における実態として資料を所蔵する地域住民との関係などに焦点を当て整理するとともに、資料受入れの課題として人員・収蔵庫問題などについて報告する。そこから、様々なアクターとして県立文書館、市町村立博物館（文化財担当部署）、新しく誕生した群馬史料ネット（群馬歴史資料継承ネットワーク）との関係を含めて現在の群馬県内の地域資料の保存・継承の状況と、特にいわゆる予防ネットとして誕生した群馬史料ネットと群馬県立歴史博物館との関係について今後を展望する。

【報告者プロフィール】

佐藤有（さとう・ゆう）

群馬県立歴史博物館・学芸員。1979年東京都生まれ。

専門：日本近代史、博物館学。

群馬県企画部世界遺産課などを経て現職。群馬歴史資料継承ネットワーク運営委員、群馬県立女子大学非常勤講師。最近は歴史的な構造物が近代社会の中でどのように価値づけられてきたのかについて調べている。主な著書に『近代日本成立期の研究（地域編）』（松尾正人編・分担執筆、岩田書院、2018年）、『群馬の歴史資料を未来へ』（分担執筆、群馬歴史文化遺産発掘・活用・発信実行委員会、2021年）など。

千葉歴史・自然資料救済ネットワーク／千葉大学大学院

小野寺華子

千葉資料救済ネットは、県内を中心に活動を展開するボランティア団体である。2022・2023年度には千葉大学と連携し、「菱田忠義氏旧蔵資料」の目録作成を行った。

千葉大学文学部歴史学コースでは「古文書実習」という科目名で、学生が実際に歴史資料に触れ、史料整理の一連の手順を学ぶ機会を設けている。学生の受講理由としては「くずし字を実際の資料を用いて読んでみたい」というものが多く、資料保存に対して最初から関心を持っている学生は少ない印象だった。実際その後行われた千葉資料救済ネット自体の活動にも参加してくれた受講生はほとんどおらず、千葉資料救済ネットが抱える「若手不足」という課題にも繋がる状況となっている。

人員（参加者・担い手）という面で、大学と連携しての活動と千葉資料救済ネット単体での活動との間に連続性が見られない理由として、学生が求めるものと千葉資料救済ネット側が提供できるもののマッチングが上手くいっていない可能性が考えられるため、本報告では双方の視点から状況を整理し、若手不足の課題解決に向けた糸口とすることを目指したい。

【報告者プロフィール】

小野寺華子（おのでら・はなこ）

千葉大学大学院人文公共学府博士前期課程所属。1999年岩手県盛岡市生まれ。

専門：日本近世史。

様々な史料整理補助の経験を経て資料保存について関心を持ち始め、2021年度より千葉資料救済ネットの活動に参加している。大学院ではデジタル・ヒューマニティーズ（人文情報学）についても学んでおり、歴史分野におけるデジタル技術の利用について勉強中である。

総合討論：首都圏地域における資料保存・継承の可能性

【登壇者】

白井哲哉（茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク／筑波大学）

工藤航平（国立歴史民俗博物館）

小関悠一郎（千葉歴史・自然資料救済ネットワーク／千葉大学教育学部）

添田仁（茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク／茨城大学）

【司会者プロフィール】

三上喜孝（みかみ・よしたか）

国立歴史民俗博物館・教授／人間文化研究機構・ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」事業代表者／山形歴史文化遺産防災ネットワーク（山形ネット）世話人。

1969年東京都府中市生まれ。

専門：日本古代史。

山形県立米沢女子短期大学、山形大学を経て現職。主な著書『日本古代の貨幣と社会』『日本古代の文字と地方社会』『落書きに歴史をよむ』（いずれも吉川弘文館）『Jr. 日本の歴史2 都と地方のくらし』（藤森健太郎氏との共著、小学館）『天皇はなぜ紙幣に描かれないのか』（小学館）

ポスターセッション

団体名・タイトル ※タイトルの記載は主催者側で印刷をした団体に限ります

1：文化財防災センター

2：千葉県博物館協会

「地域の魅力再発見「ちばの博物館」」

3：川崎市市民ミュージアム

「川崎市市民ミュージアム」

4：甲州史料調査会

5：広島県立文書館

6：あおもり資料ネットワーク準備会

「あおもり資料ネットワーク準備会の活動」

7：山形文化遺産防災ネットワーク

「山形文化遺産防災ネットワークの活動報告 2023（令和5）年」

8：ふくしま歴史資料保存ネットワーク

「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」

9：そうま歴史資料保存ネットワーク

「そうま歴史資料保存ネットワーク」

10：茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク

「2023年9月 台風13号被災資料レスキュー活動」

11：とちぎ歴史資料ネットワーク

「とちぎ歴史資料ネットワーク（とちぎ史料ネット）」

12：那須資料ネット

「那須資料ネット」

13：群馬歴史資料継承ネットワーク

「ぐんま史料ネットの挑戦 「予防ネット」の確立に向けた4つの活動」

14：千葉歴史・自然資料救済ネットワーク

「千葉歴史・自然資料救済ネットワーク」

15：NPO 法人歴史資料継承機構じゃんぴん

16：新潟歴史資料救済ネットワーク

「新潟歴史資料救済ネットワーク」

17：信州資料ネット（長野市立博物館）

「市民ボランティアと博物館進化する連携と技術 2023」

18：東海歴史資料保全ネットワーク

「東海歴史資料保全ネットワークの紹介」

19：歴史資料ネットワーク

「歴史資料ネットワーク 2023 年度活動報告」

20：歴史資料保全ネット・わかやま

「活動報告（歴史資料保全ネット・わかやま）」

21：山陰歴史資料ネットワーク

「山陰歴史資料ネットワーク」

22：岡山史料ネット

「2023 年度岡山史料ネットの活動について」

23：愛媛資料ネット

24：高知地域資料保存ネットワーク

「2023 年度高知資料ネットの活動」

25：宮崎歴史資料ネットワーク

「宮崎歴史資料ネットワークの今」

26：鹿児島歴史資料防災ネットワーク

ポスター発表者プロフィール

川内淳史（かわうち・あつし）

NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク事務局長／あおり資料ネットワーク準備会

1980年青森市生まれ。東北大学災害科学国際研究所准教授。歴史資料ネットワーク運営委員、事務局長、副代表を経て、2021年より宮城資料ネット事務局長。今回は「あおり資料ネットワーク準備会」として参加します。2022年8月豪雨を経験した青森県では、県内の関係者により資料ネット設立に向けた準備を進められています。いずれ青森でも全国集会を開催できれば！

植松暁彦（うえまつ・あきひこ）

山形県文化遺産防災ネットワーク世話人／（公財）山形県埋蔵文化財センター

1968年山形県生まれ。専門は日本考古学。2007年新潟県中越沖地震などを契機に、2008年に県内歴史学関係者で結成された山形県文化遺産防災ネットワーク（通称「山形ネット」）に参加。2011年東日本大震災時に隣県の文化財レスキューなどに同センター有志で従事。

阿部浩一（あべ・こういち）

ふくしま歴史資料保存ネットワーク代表、そうま歴史資料保存ネットワーク幹事／福島大学行政政策学類教授

1967年生まれ。専門は日本中世史。著書に『戦国期の徳政と地域社会』（吉川弘文館、2001年）、編著書に『ふくしま再生と歴史・文化遺産』（山川出版社、2013年）、論文に「ふくしまの現場から振り返る11年—できたこと、できなかったこと—」（『史学』92巻1・2号、2023年）。

武内義明（たけうち・よしあき）

そうま歴史資料保存ネットワーク／福島県立相馬高等学校講師

1957年、福島県相馬市生まれ。県立高校の国語の教員として福島県内で勤務したのちに、常勤講師として勤務。東日本大震災、2021・2022年と続いた宮城・福島県沖地震によって歴史ある相馬の文化財が被害を受けている状況を受けて活動を立ち上げました。民間の任意団体としてスタートし2年目です。宮城ネット、ふくしまネットのご指導を受けながら活動を行っています。

鈴木龍郎（すずき・たつろう）

そうま歴史資料保存ネットワーク代表／日本画家

1952年福島県相馬市に生まれる。東京芸術大学美術学部入学、東京芸術大学大学院修了、工藤工人に師事。銀座・六本木等で毎年個展開催、福島県展審査員。2011年～21年 東日本大震災チャリティー展「遙か彼方は相馬の空に」。2018年在日ウクライナ大使館「チェルノブイリと福島に捧げる2人展」。

海野貴之（うみの・たかゆき）

茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク／茨城大学大学院人文社会科学部人文科学専攻

2000年、茨城県生まれ。専門は日本近現代史。学部2年次から史料ネットの活動に参加し、今年度からは事務局員を務めております。現在は土浦市の近現代文書群と2023年台風13号で被災した学校関係資料の整理作業をしています。研究ではアジア・太平洋戦争期の宣伝戦について調査しています。

堀野周平（ほりの・しゅうへい）

とちぎ歴史資料ネットワーク運営委員／鹿沼市教育委員会事務局文化課主任主事

1988年千葉県生まれ。流山市、千葉県での勤務を経て2014年より現職。専門は日本近世・近代史。文化財保護行政の一環として地域に残る未指定の民間所在資料の調査・保存と活用をおこなっています。令和元年東日本台風の際は、被災した小学校資料のレスキューを実施しました。

金井忠夫（かない・ただお）

那須資料ネット代表

1954年、埼玉県生まれ。専門は日本近代史・民俗学。「市民を主体とした那須資料ネットの発足」（『群馬の歴史資料を未来へー歴史資料ネットワーク事始めー』2022年）。2020年に栃木県的那須地区3市2町（那須町・那須塩原市・大田原市・那珂川町・那須烏山市）をコアフィールドとする地域型の資料ネットを立ち上げる。市町村単位で分散保全を想定し、レスキュー・保全の分散管理を構築している。併せて、市民が地域の歴史文化資料の保全を担うという構図を描く。

井坂優斗（いさか・ゆうと）

群馬歴史資料継承ネットワーク運営委員／館林市史編さんセンター主事（学芸員）

茨城県小美玉市出身。専門は日本近現代史。2016年より現職。群馬歴史資料継承ネットワークへは2021年の設立時より運営委員として携わる。北関東をフィールドにして文化史の研究をしております。災害で失われる文化、生まれる文化についても研究していきたいと考えています。

濱島実樹（はましま・みき）

千葉資料ネット／早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程／自由民権資料館学芸員

日本近世史専攻。学部のとときにゼミのみなさんと鹿児島資料ネットの一員として活動したことをきっかけに、「地域と資料保存・利活用」について考えるようになりました。上京してからは、千葉資料ネットでも勉強させていただいています。

谷拓馬（たに・たくま）

川崎市市民ミュージアム学芸員

1992年、東京都生まれ。専門は日本近現代史、博物館学。國學院大学大学院を修了後、2017年より現職。当館の被災収蔵品レスキュー活動を続けながら、アウトリーチ形式での展覧会やワークショップ等の学芸業務も行っている。「技術報告 川崎市市民ミュージアムにおける被災歴史資料のカビ量及び同定検査」（『川崎市市民ミュージアム紀要』第34集、2022年）、「川崎市市民ミュージアムのレスキュー状況ー歴史資料を中心にー」（『アーキビスト』No.97、2022年）など。

西村慎太郎（にしむら・しんたろう）

NPO 法人歴史資料継承機構じゃんぴん代表理事／甲州史料調査会前事務局長

1974年、東京都青梅市生まれ。専門は歴史学・アーカイブズ学。主な編著書は『大字誌両竹』1～5（蕃山房、2019年～2023年。泉田邦彦共編）、『「大字誌浪江町権現堂」のススメ』1・2（いりの舎、2021年・2023年）ほか。

原直史（はら・なおふみ）

新潟歴史資料救済ネットワーク代表／新潟大学人文学部教授

1962年東京都生まれ。専門分野は日本近世史。2004年の新潟県中越地震に際して結成された新潟歴史資料救済ネットワークの事務局員を当初から勤め、2019年より代表。ボランティア史料調査団体「房総史料調査会」「越佐歴史資料調査会」の立ち上げにそれぞれ関わり、現在後者の世話人としても活動中。

原田和彦（はらだ・かずひこ）

信州資料ネット／長野市立博物館

現在、長野市立博物館に勤務しています。令和元年に発生した洪水により水損した多くの資料を、地元ボランティアの皆さんと緊急処置を進めています。松代藩政を中心に勉強しています。学生時代は、日本古代史（平安時代）を研究してきました。

田中博久（たなか・ひろひさ）

東海歴史資料保全ネットワーク／愛知大学総合郷土研究所研究員

1987年、愛知県豊川市生まれ。専門は日本近世史。愛知大学総合郷土研究所で古文書整理・目録慣行に従事する傍ら、岐阜市歴史博物館での史料調査にも参加し、地域史料を整理する楽しさを日々実感しています。他にも三河・遠州地域を中心に、鍼灸や農業にも携わりながら、地域に眠る古文書が今まで以上に身近な存在になってもらえるように、地域の人たちとの出会いを大切にしています。

仲田侑加（なかつた・ゆか）

歴史資料ネットワーク運営委員／甲南大学非常勤講師

1990年、大阪府生まれ。専門は日本近世史。2017年から歴史資料ネットワークの活動に参加し、現在は東日本大震災や2018年台風21号により被災した史料の整理作業をボランティアの方々とともに行っております。

戸部愛菜（とべ・あいな）

歴史資料ネットワーク事務局員

1998年、神奈川県生まれ。専門は日本近現代史。昨年度修士課程を修了し、現在は自治体の防災部局で勤務しています。研究では、一方では近代の神戸市域の開発と行政機構の変遷、もう一方では都市化が進む地域における史跡と歴史の顕彰などを追いながら、震災資料など現在の史料保全にも関心を持っています。

橋本唯子（はしもと・ゆいこ）

歴史資料保全ネット・わかやま代表／和歌山大学教育機構教養教育部門准教授

学芸員養成課程の講義を多く担当。石川県金沢市生まれ。共著『わかやまを学ぶ』（清文堂出版、2017）、共著『世界史とつながる日本史 紀伊半島からの視座』（ミネルヴァ書房、2018）などがある。

板垣貴志（いたがき・たかし）

山陰歴史資料ネットワーク／島根大学法文学部准教授

1978年、島根県出雲市生まれ。専門は日本近現代史。神戸の史料ネット活動に参加して学び培ったものを、山陰で応用しています。最近では、地域に残されてきた民間所在の近現代資料の調査・研究を住民参加で取り組んでいます。遊び心のある資料保存活動を目指しています。

松岡弘之（まつおか・ひろゆき）

岡山史料ネット事務局長／岡山大学文学部准教授

1976年、広島県福山市生まれ。専門は日本近現代史。基礎自治体での市史編纂・文書館勤務を経て2020年より現職。認証アーキビスト。西日本豪雨の際にレスキューされた資料の修復を少しずつ進めているところですが、このたびの能登半島地震について岡山からどういったご恩返しができるか考えているところです。

西向宏介（にしむかい・こうすけ）

広島歴史資料ネットワーク／広島県立文書館

兵庫県姫路市生まれ。2018年西日本豪雨災害時に、広島県立文書館で文書レスキューを行い、再組織された広島歴史資料ネットワークと共に被災文書の保全活動に従事してきました。2023年度からは文書館ボランティアの活動を開始し、収蔵文書の整理を中心に様々な取り組みを行っています。

下向井祐子（しもむかい・ゆうこ）

広島歴史資料ネットワーク／広島県立文書館

広島県呉市生まれ。2018年西日本豪雨で被災した文書の保全活動に従事し、応急処置後の被災文書の整理と保存なども担当。今年度は、文書館ボランティアの皆さんと一緒に、古文書の整理や被災した屏風の下張り文書の剥離作業などに取り組んでいます。

胡光（えべす・ひかる）

愛媛資料ネット代表／愛媛大学法文学部教授／四国遍路・世界の巡礼研究センター長

西日本豪雨から救出した宇和島市内の文書の修復・整理を終え、現在は、愛媛県内から大学に持ち込まれた大名家・庄屋家・寺院文書の整理を学生たちとともにを行っています。県内各地に残る埋もれた資料情報の把握を、愛媛県教育委員会とも協力しながら進めようとしています。震災の様子を見るたびに急務であることを実感します。

望月良親（もちづき・よしちか）

高知地域資料保存ネットワーク／高知大学教育学部講師

1981年、山梨県生まれ。専門は日本近世史。高知に職を得て、6年が経とうとしています。高知資料ネットにおける活動以外にも、高知県の学校資料を考える会にも参加し、地域資料の保存活動に取り組んでいます。最近、高知における戦後の歴史資料所在調査や保存活動についても調べています。

靱木郁朗（もみき・いくろう）

宮崎歴史資料ネットワーク副代表／宮崎県教育庁文化財課／宮崎公立大学非常勤講師

1961年、宮崎県宮崎市生まれ。専門は日本近代史。宮崎県史をはじめ自治体史の編さんに関わりながら、南九州を対象とした地方政治の研究を進めています。2005年の台風14号災害を契機に歴史資料ネットワークの指導を仰ぎ、仲間たちとともに宮崎歴史資料ネットワークを立ち上げました。現在は、鹿児島歴史資料防災ネットワークとともに、南九州各地の資料保全活動等を通じて、地域資料の防災・減災、保存・活用に取り組んでいます。

福田泰典（ふくだ・やすのり）

宮崎歴史資料ネットワーク／宮崎市立瓜生野小学校校長

1964年、宮崎県宮崎市生まれ。1986年に公立学校教員として採用され、その後1998年から2016年まで埋蔵文化財、博物館、図書館などで文化財行政に携わりました。宮崎歴史資料ネットワークの一員として、これまでの経験を生かしながら被災資料のレスキュー作業等に当たっています。

川畑舞桜（かわばた・まお）

所属：鹿児島歴史資料防災ネットワーク／鹿児島大学教育学部4年

大学では日本史ゼミに所属し、近世史を中心に学んできました。卒業後は県庁職員として、資料保存活動に携わっていただけると考えております。

第10回全国史料ネット研究交流集会実行委員会

- 委員長：久留島浩（千葉歴史・自然資料救済ネットワーク共同代表）
委員：小関悠一郎（千葉歴史・自然資料救済ネットワーク共同代表）
委員：檜皮瑞樹（千葉歴史・自然資料救済ネットワーク共同代表）
委員：鈴木凜（千葉歴史・自然資料救済ネットワーク）
委員：濱島実樹（千葉歴史・自然資料救済ネットワーク）
委員：高橋修（茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク代表）
委員：白井哲哉（茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク）
委員：佐々木啓（茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク）
委員：添田仁（茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク）
委員：築瀬大輔（群馬歴史資料継承ネットワーク代表）
委員：森田真一（群馬歴史資料継承ネットワーク）
委員：佐藤有（群馬歴史資料継承ネットワーク）
委員：小島圭（群馬歴史資料継承ネットワーク）
委員：長谷川明則（群馬歴史資料継承ネットワーク）
委員：高山慶子（とちぎ歴史資料ネットワーク代表）
委員：大山恒（とちぎ歴史資料ネットワーク）
委員：福田博晃（とちぎ歴史資料ネットワーク）
委員：坂本菜月（那須資料ネット）
委員：大田原未華（那須資料ネット）
委員：山内れい（那須資料ネット）
委員：西村慎太郎（NPO 法人歴史資料継承機構じゃんぴん代表理事）
委員：岡村龍男（NPO 法人歴史資料継承機構じゃんぴん）
委員：西口正隆（NPO 法人歴史資料継承機構じゃんぴん）
監事：作間亮哉（那須資料ネット）

・人間文化研究機構 要覧



・予稿集・関連リンク & ポスター発表サイト



第10回全国史料ネット研究交流集会 in 首都圏 予稿集

発行日：2024年2月17日

編集：人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト

「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117 国立歴史民俗博物館
